

# 子どもの遊びとリーダーシップに関する研究

— スポーツクラブと学校生活の関係を中心にして —

(保健体育研究室) 堺 賢 治  
(保健体育研究室) 藤 原 誠  
(教育学研究科保健体育専修) 伊賀上 哲 旭  
(愛媛女子短期大学) 山 本 孔 一

## A study of childplay and leadership

— with centering upon the relation of sports club and school life —

Kenji SAKAI, Makoto FUJIWARA, Tetsuaki IGAUE and Kouichi YAMAMOTO

(平成19年6月8日受理)

### I. 序 論

子どもの体力・運動能力の低下が指摘されている。その原因として、体育の時間が減少したこと、運動している子としていない子の二極化が起こっていること、などがあげられる。しかし、もっと深刻なことは、異年齢の遊び集団が少なくなり、地域での外遊びが減少したことである。その結果、子どもの直接的なコミュニケーション能力や人間関係能力が低下してきている。かわりに出てきたのが携帯電話やメールなどによる間接的なコミュニケーションによる人間関係の場面が多くなってきた。従来、異年齢の遊び集団によって構築されたタテ関係が無くなることによって、以前に比べて子どもたちのリーダーシップ能力が低下してきた。このことが子どもたちの学校生活に悪い影響を与えている<sup>1)</sup>。

そのかわり、遊んでいない子どもたちをより遊ばすために出てきたのがスポーツ少年団である。しかしながら、スポーツ少年団は子どもの健康・体力づくりに役立っていても人間関係能力を高めるリーダーシップの育成に寄与しているのであろうか。

今まで、子どもの遊び集団や仲間集団とリーダーシップの関係について、「子どもの遊びと仲間集団に関する研究—リーダーシップを中心に—」<sup>2)</sup> 「遊び場面におけるリーダーシップに関する研究—仲間集団や学校生活に及ぼす影響—」<sup>3)</sup> 「子どもの遊び集団とリーダーシップに関する研究」<sup>4)</sup> の実証的研究をしてきた。その結果、

①遊び場面のリーダーシップは女の子の方が男の子よりも高い。②今の子どもの遊びは、地域よりも学校で遊んでいる。③遊び場面でのリーダーシップ能力の高い子どもは、全ての学校生活場面のリーダーシップ能力も高い。④今の子どもは多人数で行う遊び集団を作る能力はなく、大人の手をかりなければ出来ないことがわかった。

そこで本研究では、第一に、10年前の調査研究と比較をするとともに、第二に、スポーツ少年団の活動は学校生活において、スポーツ少年団以外のスポーツクラブに加入している子どもや未加入の子どもたちに比べてプラスにはたらいているかを追求することを目的にした。

### II. 方 法

調査対象：愛媛県松山市内の小学校の5年生 810名

調査期間：2005年12月

調査方法：質問紙による配票調査

回収率：有効回収数 708名 有効回収率 87.4%

分析の視点

(1)リーダーシップ能力

リーダーシップには、目標達成機能と集団維持機能とがある<sup>5)</sup>。それに基づき、子どもたちの遊び場面に焦点を合わせ、次のような調査内容を作成した。なお各場面において①～⑨に書いてあるものは目標達成機能に関する質問、⑩～⑬に書いてあるものは集団維持機能に関する質問である。

- ①何をして遊ぶか、自分で言い出して決める。
- ②遊びのルールを自分が進んで決める。
- ③遊びに行くときに友達をたくさん誘う。
- ④遊びが不得意な子には遊び方を教える。
- ⑤場所や用具によって、遊びや遊び方を変える。
- ⑥遊びを切り上げるときやかたづけのときに、みんなに呼びかける。
- ⑦誰かがけがをしたときにはすぐに対応できる。
- ⑧他の遊びのグループに対して、自分たちの遊びに誘う。
- ⑨新しい遊びを考える。
- ⑩誰とでも仲良く遊ぶことが出来る。
- ⑪遊び方を決めるとき、反対している人を何とかして説得する。
- ⑫けんかになったら、すぐに止めに入って仲直りさせようとする。
- ⑬ルールを決めるときは、なるべくみんなに意見を聞いてまとめる。
- ⑭友達が失敗したときにははげましの声をかける。
- ⑮いつも楽しく遊べるように、みんなに気を配る。
- ⑯怒ったり泣いたりした子の話を聞いてあげる。

これらの質問に関しては、すべて4段階にランク付けされた回答(よくあてはまる…4点、ややあてはまる…3点、ややあてはまらない…2点、全然あてはまらない…1点)を用意した。

上記のすべての回答を合計したものから、得点が51点以上を遊び場面でのリーダーシップのある群(以下、上位群とする)とし、得点が39点以下を遊び場面でのリーダーシップがない群(以下、下位群とする)とした。

合計得点51点以上 N=215(30.4%)…上位群  
 合計得点40～50点 N=324(45.7%)  
 合計得点39点以下 N=169(23.9%)…下位群

(2) スポーツクラブ加入の有無

スポーツ少年団加入者(以下、スポ少とする)、その他のスポーツクラブ加入者(以下、クラブとする)、未加入者(以下、未加入とする)の三つの群に分けて考察を進める。

スポーツ少年団 N=190(26.8%)…以下、スポ少  
 その他のスポーツクラブ N=193(27.3%)…以下、クラブ  
 未加入 N=324(45.9%)…以下、未加入

Ⅲ. 結果及び考察

1. 性別

表1は性別におけるリーダーシップの有無をあらわしたものである。上位群では、男子の35.8%に対し女子は64.2%であり、下位群では男子の65.2%に対し女子は34.3%であり、遊び場面のリーダーシップにおいては女子の方が高いといえる。10年前の調査において、上位群は、男子44.9%、女子55.1%であり<sup>3)</sup>、この10年間で男子の遊び場面でのリーダーシップ能力がさらに落ちていることがわかる。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると、男子はスポ少66.3%、クラブ54.4%、未加入41.0%、女子はスポ少33.7%、クラブ45.6%、未加入59.0%である。男子はスポ少とクラブが多く、女子は未加入が多い。

表1 性別 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入
男	35.8	65.7	66.3	54.4	41.0
女	64.2	34.3	33.7	45.6	59.0

p<0.001 (χ<sup>2</sup>検定) p<0.001

2. 遊びの現状

(1) 遊び時間

表2は平日の遊び時間をあらわしたものである。全体では、「1～2時間」が44.1%と最も多く、「2～3時間」の23.3%、「1時間未満」の14.0%と続いている。

リーダーシップ能力で比較すると差はみられない。

スポーツクラブ加入の有無で比べても差はみられない。

表3は休日の遊び時間を示したものである。休日の遊び時間において、全体では、「3～5時間」が34.9%と最も多く、「5～7時間」の28.1%、「7時間以上」の14.5%と続いており、平日に比べよく遊んでいるといえる。

リーダーシップ能力で比較すると、「5時間以上」遊んでいる子どもは、上位群41.4%、下位群53.8%と下位群の方がよく遊んでいる傾向がみられる。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると、「5時間以上」遊んでいる子どもは、スポ少31.6%、クラブ40.9%、未加入50.0%となり、スポーツクラブ加入者ほど遊んでいない。この理由として、スポーツクラブ加入者はスポーツ活動に忙しく、遊ぶ時間が少ないためではないかと思われる。

表2 遊び時間(平日) (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
0分	3.3	1.8	2.6	2.6	3.1	2.8
1時間未満	15.8	10.7	15.3	13.5	13.6	14.0
1～2時間	42.8	48.5	44.7	46.7	42.3	44.1
2～3時間	23.7	18.9	21.6	24.4	23.8	23.3
3～5時間	10.2	13.6	9.5	10.9	10.8	10.6
5～7時間	3.7	5.3	3.7	1.6	5.6	4.0
7時間以上	0.0	0.6	0.5	0.5	0.3	0.4
無回答	0.5	0.6	2.1	0.0	0.5	0.8

n.s. n.s.

表3 遊び時間(休日) (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
0分	0.5	2.4	3.7	0.5	1.2	1.7
1時間未満	2.3	0.6	2.6	2.1	1.9	2.1
1～2時間	9.8	4.7	8.4	6.2	4.6	6.1
2～3時間	12.6	7.7	13.2	12.4	11.1	12.0
3～5時間	33.4	30.2	39.5	36.8	31.2	34.9
5～7時間	27.4	34.9	23.7	26.4	31.5	28.1
7時間以上	14.0	18.9	7.9	14.5	18.5	14.5
無回答	0.0	0.6	1.0	1.1	0.0	0.6

p<0.05 p<0.05

## (2)遊び空間

表4は平日の遊び空間をあらわしたものである。全体では、「自分の家の中」や「友達の家の中」などの「中遊び」をしている子どもは53.9%にものぼり、約半数の子どもが中遊びをしている。また、「公園」「運動場」「空き地・原っぱ」など「外遊び」は25.3%、「家の庭」や「家のそば」など「家の周辺」は12.5%となっている。

リーダーシップ能力で比較するとあまり差はみられない。

スポーツクラブ加入の有無で比べても差はみられ

ない。

表5は休日の遊び空間を示したものである。全体では、「中遊び」が47.6%と最も多く、次いで、「外遊び」の26.2%、「家の周辺」の15.7%と「中遊び」を行っている者が多い。しかしながら、「外遊び」をしている子どもは1割近く増えており、遊び時間の増加と相まってよく遊んでいるといえる。

リーダーシップ能力で比較すると、上位群の方が下位群よりも「外遊び」をしている傾向がみられる。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると差はみられない。

表4 遊び空間(平日) (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
公園	15.3	11.8	12.6	17.1	17.6	16.1
学校の運動場	6.5	6.5	8.4	6.2	4.6	6.1
空き地・原っぱ	0.9	0.0	0.5	1.6	0.3	0.7
家のそば	13.5	8.3	8.4	8.8	11.7	10.0
家の庭	3.3	1.8	2.6	1.0	3.1	2.4
友達の家の中	21.4	16.6	21.6	19.7	20.7	20.6
自分の家の中	29.8	42.0	35.8	35.2	30.6	33.3
その他	8.5	11.4	8.5	9.2	10.1	9.4
無回答	0.8	1.6	1.6	1.2	1.3	1.4

n.s. n.s.

表5 遊び空間(休日) (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
公園	22.8	14.2	14.2	20.7	17.6	17.5
学校の運動場	2.8	1.8	6.8	1.6	0.9	2.7
空き地・原っぱ	2.3	2.4	3.2	3.6	1.2	2.4
家のそば	12.6	11.2	9.5	10.9	14.2	12.0
家の庭	3.3	4.7	2.9	1.6	5.6	3.7
友達の家の中	22.8	14.2	26.3	19.2	16.4	19.8
自分の家の中	22.3	35.5	23.2	29.0	29.6	27.8
その他	11.2	14.3	12.6	12.3	13.5	12.9
無回答	0.0	1.7	1.3	1.1	1.0	1.2

n.s. p<0.01

## (3)遊び仲間

表6は平日の遊び仲間の人数をあらわしたものである。全体では、「3～4人」で遊んでいる者は37.0%と最も多く、次いで、「2人」の34.5%、「1人」の16.7%と続いており、多人数で遊ぶ子どもは少ない。10年前の調査では、遊び人数が「1人」と回答した子どもが4.3%であり、1人遊びをしている

子どもが増加していることがわかる。

リーダーシップ能力で比較すると、上位群では、「1人」で遊んでいる子どもが11.2%いるのに対して、下位群では、25.4%となっており、下位群の方が少人数で遊んでいる。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると差はみられない。

表7は休日の遊び仲間の人数をあらわしたものである。全体では、「3～4人」で遊んでいる者は38.6%と最も多く、次いで、「2人」の26.8%、「5～9人」の20.8%と続いており、平日に比べて、遊びの人数が増加している。

リーダーシップ能力で比較すると、上位群では、「5人以上」で遊んでいる子どもが30.3%いるのに対して、下位群では、20.7%となっており、上位群の子どもほど多人数で遊んでいる。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると差はみられない。

表6 遊び仲間(平日) (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
1人	11.2	25.4	17.4	14.0	17.9	16.7
2人	36.3	34.3	29.5	36.3	36.4	34.5
3～4人	40.0	29.0	39.5	36.8	35.5	37.0
5～9人	9.8	7.1	9.5	9.8	7.7	8.8
10人以上	0.9	1.2	1.6	1.0	1.2	1.3
無回答	1.8	3.0	2.5	2.1	1.3	1.7

p<0.05 n.s.

表7 遊び仲間(休日) (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
1人	3.7	16.6	7.9	10.9	8.0	8.8
2人	26.0	24.9	22.6	29.5	27.5	26.8
3～4人	39.5	35.5	37.4	36.3	40.7	38.6
5～9人	27.0	15.4	25.8	18.1	19.4	20.8
10人以上	3.3	5.3	3.7	4.1	3.4	3.7
無回答	0.5	2.3	2.6	1.1	1.0	1.3

p<0.01 n.s.

(4) 多人数で遊ぶ

表8は多人数で遊ぶ(ソフトボール、サッカー、ドッチボールなど)のためにあまり親しくない友達を含めて作られる活動集団<sup>6)</sup>で遊んだことをたずねたものである。全体では、「遊ぶことが多い」と回答した子どもは、13.6%であり、多人数で遊ぶ

びをしている子どもは少ない。

リーダーシップ能力で比較すると、「一緒に遊ぶことが多い」と「ときどき遊ぶことがある」を合わせると、上位群は73.0%、下位群は47.4%であり、上位群の子どもほど多人数で遊んでいる。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると差はみられない。

表8 多人数で遊ぶ (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
いっしょに遊ぶことが多い	20.0	9.5	16.8	14.0	11.1	13.6
ときどき遊ぶことがある	53.0	37.8	45.3	54.4	49.4	49.5
ほとんど遊んだことがない	21.9	32.0	29.5	21.2	29.6	27.3
遊んだことがない	5.1	20.7	8.4	10.4	9.9	9.6

p<0.001 n.s.

(5) 多人数で遊ぶ方法

表9はどのようにすれば多人数で遊ぶようになるかをたずねたものである。全体では、「時間にゆとりができたなら」の65.0%、「大勢で遊べる場所があったら」の58.5%、「友達の数が増えたら」の55.1%と遊びの三つの間ができたらと指摘する子どもが多い。次いで、「体育の授業で大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」の44.2%、「学級会などで、大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」の32.8%、「自分の好きな遊び場を用意してくれたら」の32.1%と続いている。今の子どもたちは、多人数で遊ぶを大人たちに作ってもらうことを期待している。8年前の調査結果では<sup>5)</sup>、「体育の授業で大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」の31.0%、「学級会などで、大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」の20.5%であり、より悪くなっていることがわかる。

リーダーシップ能力で比較すると、上位群では、ほぼすべての項目について下位群より多いことがわかる。特に、「体育の授業で大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」では、上位群48.8%、下位群33.7%、「学級会などで、大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」では、上位群39.5%、下位群24.9%であり、上位群の子どもも大人に依存していることがわかる。また、8年前の調査結果では、「体育の授業で大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」は上位群25.8%であり、事態の深刻さがわかる。



表9 多人数で遊ぶ方法 (％)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
時間にゆとりができた	65.1	60.4	67.9	66.8	62.0	65.0
大勢で遊べる場所があった	57.2	49.7	62.6	57.0	56.8	58.5
友達の数がもっとふえたら	55.8	47.9	52.6	55.4	56.2	55.1
体育の授業で大勢で遊ぶ授業をしてくれたら	48.8	33.7	47.9	45.6	41.0	44.2
学級会などで大勢で遊ぶ場をつくってもらえたら	39.5	24.9	32.6	30.1	34.3	32.8
自分の好きな遊びを用意してくれたら	33.0	26.6	32.1	31.1	32.4	32.1
放課後、学校の中に大勢で遊ぶ場ができた	23.3	24.3	28.9	24.9	22.2	24.7
スポーツクラブの中で子どもに自由にやらせてもらえたら	29.3	16.6	33.2	24.4	14.5	23.6
学校や地域キャンプなどの野外活動の場を用意してくれたら	22.8	19.5	26.3	23.8	21.6	22.3
子どもの中に全体をまとめる人ができた	21.4	20.7	17.4	17.6	25.3	21.0
受験戦争がなくなったら	15.3	17.8	15.3	19.7	14.8	16.4
大人が大勢で遊ぶのを教えてくれたら	19.5	10.1	16.3	13.5	14.8	14.8

(当てはまるものすべてに○印)

スポーツクラブ加入の有無で比較すると、差のある項目として、「スポーツクラブの中で子どもに自由にやらせてもらえたら」では、スポ少32.2%、クラブ24.4%、未加入14.5%となっており、スポーツクラブ加入者ほど、スポーツクラブの中で、自由に活動したいと思っている子どもが多い。

### 3. スポーツクラブ活動

#### (1) スポーツクラブ参加者の活動頻度

表10は、スポーツクラブ参加者の一週間の活動回数をたずねたものである。全体では、「週4回以上」活動している子どもは、46.7%であり、スポーツ活動の頻度が高いことがわかる。

リーダーシップ能力で比較すると差はみられない。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると、「週4回以上」では、スポ少79.0%、クラブ13.4%であり、スポーツ少年団はその他のスポーツクラブに比べ、活動頻度が高いことがわかる。

表10 スポーツクラブ参加者の活動頻度 (％)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	全体
週に6回以上	7.7	10.8	15.3	3.6	9.9
週に4~5回	35.0	42.2	63.7	9.8	36.8
週に2~3回	27.4	15.7	14.2	34.2	24.3
週に1回未満	25.6	24.1	2.1	45.6	24.0
その他	3.4	6.0	3.2	5.2	4.2
無回答	0.9	1.2	1.5	1.6	0.8

n.s. p<0.001

#### (2) 理想的なスポーツクラブ像

表11は理想的なスポーツクラブ像についてたずねたものである。全体では、「スポーツがうまくなる」が60.5%と最も多く、次いで、「スポーツが好きになる」の57.2%、「スポーツが苦手でも楽しくできる」の53.2%、「友達がたくさんできる」の50.0%と続いている。このことから、たくさん仲間と楽しく活動でき、技術レベルの向上も見られるようなスポーツクラブを子どもたちは望んでいることがわかる。このような理想的なスポーツクラブとして、総合型地域スポーツクラブがあげられる。

リーダーシップ能力で比較すると、上位群はほとんどの項目において下位群を上回っている。上位群が下位群より10%以上高かった項目では、高い順に、「スポーツが好きにある」「いろいろなスポーツができる」「スポーツが苦手でも楽しくできる」「家族と一緒にスポーツができる」「お友達がたくさんできる」「スポーツがうまくなる」であり、リーダーシップ能力の高い子は理想的なスポーツクラブ像について多くの意見を持っていることがわかる。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると、スポ少では、「身体が丈夫になる」「スポーツがうまくなる」などの項目が多く、試合で勝つために、うまくなることや強くなるなどを望んでいる子どもが多いことがわかる。クラブでは、「友達がたくさんできる」「地域の人となかよくなる」「もっと遊ぶことができる」などの項目が多く、スポーツ活動を通して仲間

との交流を深めたい子どもが多いことがわかる。未加入では、「楽しいメニューがいっぱいある」「昔の遊びがお年寄りとできる」「スポーツが苦手でも楽しくできる」などの項目が多く、スポーツが上手でなくてもできるスポーツ環境を期待している子どもが多いことがわかる。

表11 理想的なクラブ像 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
スポーツがうまくなる	63.7	53.3	67.9	66.3	52.8	60.5
スポーツが好きになる	63.7	46.2	61.6	63.2	50.9	57.2
スポーツが苦手でも楽しくできる	59.5	46.2	42.6	50.8	60.8	53.2
お友達がたくさんできる	53.5	42.6	44.7	56.0	49.4	50.0
体が丈夫になる	53.5	49.7	57.4	54.9	41.0	49.3
いろいろなスポーツができる	52.1	36.1	43.7	50.3	39.5	43.6
楽しいメニューがいっぱいある	41.4	44.4	35.3	43.0	45.7	42.1
もっと遊ぶことができる	28.8	28.4	21.6	32.1	29.3	28.0
家族と一緒にスポーツができる	29.3	18.3	25.8	21.8	24.1	23.9
地域の人となかよくなる	22.3	12.4	15.8	21.2	18.5	18.5
昔の遊びがお年寄りとできる	11.6	11.2	7.4	7.3	14.8	10.7

(当てはまるものすべてに○印)

#### 4. 学校生活

##### (1) 授業の理解度

表12は授業の理解度と楽しさを示したものである。全体では、「授業もわかるし楽しい」が56.4%と最も多く、次いで、「授業はわからないが楽しい」の23.6%、「授業はわかるが楽しくない」の15.1%と続いている。このことから、学校生活において、満足している子どもが多いことがわかる。

リーダーシップ能力で比較すると、「授業もわかるし楽しい」と回答した子どもは、上位群64.3%であるのに対し下位群は43.8%であり、上位群の子どもの方が充実した学校生活を送っている。

スポーツクラブ加入の有無で比較するとあまり差はみられない。

表12 授業の理解度 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
授業もわかるし楽しい	64.7	43.8	55.8	63.7	52.2	56.4
授業はわからないが楽しい	20.5	27.8	25.8	15.0	27.5	23.6
授業はわかるが楽しくない	9.3	23.1	12.6	16.6	15.7	15.1
授業もわからないし楽しくない	3.3	5.3	4.7	3.1	3.7	3.8
無回答	2.2	0.0	1.1	1.6	0.9	1.1

p<0.01

n.s.

##### (2) 体育の授業でのリーダー

表13は体育の授業でのリーダーになることが多いかをたずねたものである。全体では、「多い」と「やや多い」をあわせると、19.5%であり、約2割の子どもしかリーダーになっていない。

リーダーシップ能力で比較すると、「多い」と「やや多い」あわせると、上位群の16.9%に比べて、下位群では13.6%であり、下位群ではリーダーになることが少ない。

スポーツクラブ加入の有無で比較すると、「多い」と「やや多い」を合わせると、スポ少40.5%、クラブ14.5%、未加入9.9%であり、スポーツ少年団加入者は、体育の授業でリーダー経験が多いことがわかる。

表13 体育の授業でのリーダー (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
多い	10.2	4.1	13.7	4.1	2.2	5.9
やや多い	16.7	9.5	26.8	10.4	7.7	13.6
どちらでもない	30.7	20.1	30.5	31.6	25.3	28.4
やや少ない	14.9	11.8	9.5	14.5	13.0	12.4
少ない	27.0	53.8	18.9	39.4	51.2	39.3
無回答	0.5	0.7	0.6	0.0	0.6	0.4

p<0.001

p<0.001

##### (3) 学校生活場面におけるリーダーシップ

子どもたちは学校生活場面において、様々なリーダーシップ発揮の場面がある。そのような場面を想定し、次のような調査内容を作成した。

- ①委員会や係りの仕事を一生懸命する。
- ②一度始めたことは、三日ぼうずでなく続けることができる。
- ③そうじのとき、そうじをしない人に注意をする。
- ④わからないことがあるときには、わかるまで調べる。
- ⑤学校の成績は良いほうである。
- ⑥自習のとき、さわいでいる人に注意をする。
- ⑦学級会のときは自分の意見を積極的に発言する。
- ⑧いままで同級生や下級生を使って仕事をしたことがある。
- ⑨発表会の出し物などは自分が決めて進めていく。
- ⑩学級会のときにみんなの意見がたくさんでた後、その意見をまとめる。

- ⑪先生は自分をたよりにしていると思う。
- ⑫自分の発言によって全体がまとまる。
- ⑬みんなが先生におこられたとき、どのようにあやまるかみんなに言う。
- ⑭みんなが先生におこられたとき、じょうだんを言っ  
てクラスを明るくしようとする。

表14～表27はその結果である。

表14 委員会・係りの仕事への意欲 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	61.5	32.0	48.4	44.0	43.5	45.0
ややあてはまる	28.8	33.0	30.0	35.2	39.2	35.7
ややあてはまらない	7.4	24.9	17.9	13.5	13.3	14.5
全然あてはまらない	2.3	10.1	3.7	7.3	4.0	4.8

p<0.001 n.s.

表15 そうじのときの注意 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	53.5	18.3	31.1	35.3	32.7	33.1
ややあてはまる	30.2	23.7	30.5	26.9	30.6	29.5
ややあてはまらない	9.8	32.0	23.2	22.8	25.3	24.0
全然あてはまらない	6.5	26.0	15.3	15.0	11.4	13.4

p<0.01 n.s.

表16 始めたことに対する持久力 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	37.2	13.6	32.6	28.5	18.8	25.3
ややあてはまる	39.6	27.2	33.2	34.2	36.1	34.8
ややあてはまらない	15.8	36.7	23.7	21.2	28.4	25.1
全然あてはまらない	7.4	22.5	10.5	16.1	16.7	14.8

p<0.001 p<0.05

表17 わからないことへの探究心 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	29.3	7.7	22.6	18.1	16.0	18.4
ややあてはまる	41.9	17.8	30.0	34.7	32.4	32.3
ややあてはまらない	23.7	49.6	33.2	31.1	40.3	36.0
全然あてはまらない	5.1	24.9	14.2	16.1	11.1	13.3

p<0.001 n.s.

表18 学校の成績の良さ (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	17.3	11.3	13.7	17.1	11.5	13.6
ややあてはまる	43.5	23.8	35.3	35.7	34.5	35.0
ややあてはまらない	23.4	38.2	28.4	28.0	34.2	30.9
全然あてはまらない	15.8	26.7	22.6	19.2	19.9	20.5

p<0.01 n.s.

表19 自習のときの注意 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	23.4	4.7	17.4	13.0	11.1	13.3
ややあてはまる	41.6	13.0	26.5	33.1	27.8	28.9
ややあてはまらない	21.5	41.5	36.5	30.1	34.2	33.6
全然あてはまらない	13.5	40.8	19.6	23.8	26.9	24.2

p<0.001 n.s.

表20 学級会での発言 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	22.3	7.1	15.8	15.5	12.1	14.0
ややあてはまる	28.4	13.0	22.6	24.9	19.2	21.6
ややあてはまらない	30.7	31.4	37.4	35.8	36.2	36.5
全然あてはまらない	18.6	48.5	24.2	23.8	32.5	27.9

p<0.001 n.s.

表21 他人への指示と仕事の達成 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	8.4	5.3	12.6	9.9	12.1	11.6
ややあてはまる	23.7	8.9	20.0	15.6	17.1	17.6
ややあてはまらない	39.1	27.8	34.2	36.0	35.9	35.4
全然あてはまらない	28.8	58.0	33.2	38.5	34.9	35.4

p<0.001 n.s.

表22 発表会の出し物の決定 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	12.6	1.2	8.4	7.8	5.6	6.9
ややあてはまる	28.4	8.3	18.4	19.7	18.5	18.8
ややあてはまらない	35.7	30.2	39.5	40.9	35.5	38.1
全然あてはまらない	23.3	60.3	33.7	31.6	40.4	36.2

p<0.001 n.s.

表23 学級会の際の取りまとめ方 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	12.6	2.4	6.8	5.7	7.7	6.9
ややあてはまる	28.8	3.0	17.9	21.2	14.8	17.4
ややあてはまらない	31.6	30.2	39.5	36.8	28.7	33.9
全然あてはまらない	27.0	64.4	35.8	36.3	48.8	41.8

p<0.001 p<0.05

表24 先生からの信頼度 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	8.4	5.3	7.4	6.7	5.2	6.2
ややあてはまる	23.7	8.9	15.8	19.7	17.3	17.7
ややあてはまらない	39.1	27.8	36.3	33.7	35.2	35.0
全然あてはまらない	28.8	58.0	40.5	39.9	42.3	41.1

p<0.001 n.s.

表 25 自分の発言の有効性 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	7.0	2.4	5.2	4.1	2.5	3.7
ややあてはまる	31.2	6.5	15.8	17.6	18.2	17.4
ややあてはまらない	41.3	24.3	39.5	43.1	37.7	39.5
全然あてはまらない	20.5	66.8	39.5	35.2	41.7	39.4

p<0.001 n.s.

表 26 先生に謝罪するときの統率力 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	8.8	2.4	7.4	4.7	3.1	4.8
ややあてはまる	15.3	7.1	12.6	12.4	11.7	12.1
ややあてはまらない	37.7	27.2	37.9	36.3	33.3	35.3
全然あてはまらない	38.1	63.3	42.1	46.6	51.5	47.6

p<0.001 n.s.

表 27 先生に怒られたときの雰囲気作り (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
あてはまる	5.6	1.8	6.3	5.2	0.9	3.5
ややあてはまる	10.7	4.1	11.6	5.7	6.5	7.6
ややあてはまらない	30.2	21.3	27.9	25.9	20.4	23.9
全然あてはまらない	53.5	72.8	54.2	63.2	72.2	65.0

p<0.01 p<0.01

これらの質問に関しては、すべて4段階にランク付けされた回答(よくあてはまるとき…4点、ややあてはまるとき…3点、ややあてはまらないとき…2点、全然あてはまらないとき…1点)を用意した。そして得点に各項目のパーセントをかけ、それぞれの合計を4で割ったものが表28である。

表 28 学校生活場面におけるリーダーシップの自己評価 (%)

項目	上位群	下位群	スポ少	クラブ	未加入	全体
委員会・係りの仕事への意欲	87	72	81	79	64	80
そうじのときの注意	83	59	69	71	71	71
はじめたことに対する持久力	77	58	72	69	64	68
わからないことへの探求心	74	52	65	64	63	64
学校の成績の良さ	65	55	60	63	59	60
自習のときの注意	60	56	60	59	56	58
学級会での発言	63	44	57	58	52	55
他人への指示と仕事の達成	53	40	53	49	51	51
発表会の出し物の決定	58	38	50	51	47	49
学級会のときのとりまとめ方	57	35	49	49	45	47
先生からの信頼度	48	46	52	50	51	47
自分の発言の有効性	56	36	47	48	45	46
先生に謝罪するときの統率力	49	37	46	44	41	43
先生に怒られたときの雰囲気作り	42	33	43	38	34	37

全体では、得点の高い項目というのは、「委員会・係りの仕事への意欲」「そうじの時の注意」「始めたことに対する持続力」「わからないことへの探求心」などのリーダーとしての要素をみるためのもので、「そうじの時の注意」をのぞけば、これらは自分自身に対する働きかけである。一方、得点の低い項目は「先生に怒られた時の雰囲気作り」「先生に謝罪するときの統率力」「自分の発言の有効性」「先生からの信頼度」「学級会のときのとりまとめ方」などの集団や他者に対する働きかけに関するものである。

リーダーシップ能力で比較すると、全ての項目において上位群の得点が下位群の得点より高くなっていることがわかり、遊び場面でのリーダーシップがある子どもは、ない子どもより、学校生活場面でもリーダーシップが発揮できる子どもが多い。両群の得点差をみると、「そうじの時の注意」「わからないことへの探求心」「発表会の出し物の決定」「学級会のときのとりまとめ方」「自分の発言の有効性」などで20点以上の差がみられる。これらは強いリーダーシップをみる質問であり、上位群に比べると下位群は積極的なリーダーシップ行動ができない子どもが多いといえる。

スポーツクラブ加入の有無で比較するとあまり差はみられなかった。

#### IV. 結 論

(1)10年前の調査と同様に、女子の方が男子よりも遊び場面のリーダーシップ能力が高い。

(2)遊びの三つの間(時間・空間・仲間)において、リーダーシップ能力の高い子ども(上位群)はリーダーシップ能力の低い子ども(下位群)に比べて、遊び仲間が多く、多人数で遊ぶをよくしている。また、スポーツ少年団加入者(スポ少)はその他のスポーツクラブ加入者(クラブ)や未加入者(未加入)と遊び仲間や多人数で遊ぶにおいて差はみられなかった。

(3)多人数で遊ぶを作る方法について、8年前の調査と同様に、大人の手によって多人数で遊ぶの場を作らなければ多人数で遊ぶが出来なくなっている。また、「体育の授業で大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」と「学級会などで、大勢で遊ぶ授業をしてくれたら」と



いう項目が上がっており、事態はより深刻になっている。

(4)理想的なスポーツクラブの条件として「初心者、経験者を問わず、たくさんの仲間と楽しく活動ができ、技術レベルの向上もみられるクラブ」を子どもたちは望んでおり、現在このような形をとるスポーツ活動の場としては、総合型地域スポーツクラブがある。

(5)10年前の調査と同様に、遊び場面でリーダーシップ能力の高い子どもは、学校の生活場面でもリーダーシップ能力が高い。一方、スポーツ少年団加入者は体育の授業では、リーダーシップ能力が高いが、学校生活においては他の子どもたちと差はみられない。

学校生活場面において、スポーツクラブ加入者の有無で差がみられなかったことは重大な問題をはらんでいる。従来は、異年齢の子どもの遊び集団によってリーダーが養成され、それが学級経営などの学校生活にプラスにはたらいていた。しかし、今はリーダーになるべき子どもたちがスポーツ少年団に加入し、大人の手による管理されたスポーツ活動になり、なかなかリーダーが出にくい環境になってきている。

この問題を解決しようすれば、「スポーツ少年団の遊び集団化によるリーダーシップの育成」が必要であろう。昔のように、スポーツを子どもの手に取り戻すことである。それをするために、総合型地域スポーツクラブはクラブ活動の中で、できるだけこのような経験をさせることによってリーダーを養成し、そのことが子どもたちの学校生活にプラスにはたらくであろう。

## 参考文献

- 1) 堺賢治(2006)「総合型地域スポーツクラブの必要性」愛媛大学教育学部保健体育紀要 第5号 pp.41-45
- 2) 堺賢治・宇野さおり(1996)「子どもの遊びと仲間集団に関する研究ーリーダーシップを中心にー」愛媛大学教育学部紀要 教育科学 第43巻 第1号 pp.175-184
- 3) 堺賢治(1998)「遊び場面におけるリーダーシップに関する研究ー仲間集団や学校生活に及ぼす影響ー」愛媛大学教育学部紀要 教育科学 第45巻 第1号 pp.131-141
- 4) 堺賢治(2000)「子どもの遊び集団とリーダーシップに関する研究」愛媛大学教育学部紀要 教育科学 第46巻 第2号 pp.127-134
- 5) 三隅二不二著(1966)「新しいリーダーシップ」ダイヤモンド社 p.117
- 6) 住田正樹著(1985)「子どもの仲間集団と地域社会」九州大学出版会 pp.126-127